2018（平成 30）年度後期
教学改善のための授業評価アンケート
報告書

大阪成蹊短期大学

調査概要

授業評価アンケート結果

調査票

調査概要

1）調査目的

授業評価アンケートは、本学教学改革の一環として、授業改善を第一の目的として実施するものである。個々の授業に対して学生の率直な意見を聴取・理解し、学生にとって分かり易く、学習成果の得易い教育活動が行えるよう、授業の充実・改善、授業法の開発に資することを目的とする。受講者数が10名未満の授業を除き、ほぼすべての授業科目を対象としている。また、ピアノ科目にはピアノ科目用の授業アンケートを実施している。

2）調査項目

＜一般科目＞

・回答者の基本属性（所属学部、学年、性別、学生区分）
・「授業への学生の取り組み」に関する項目（6問）
・「授業内容と授業の進め方」に関する項目（14問）
・「授業を通して得られたこと」に関する項目（8問）
・自由記述項目（1問）

＜ピアノ科目＞

・回答者の基本属性（所属学部）
・「授業への学生の取り組み」に関する項目（4問）
・「授業内容と授業の進め方」に関する項目（9問）
・「授業を通して得られたこと」に関する項目（8問）
・自由記述項目（1問）

3）調査対象

本学の2018（H30）年度後期開講の全授業（※受講者が10名未満のクラスの場合、担当教員の任意で実施）、及びこれらの授業を履修している全学生

4）調査方法

・各授業の終了前15分程度を使用し、出席者に対して無記名式の調査を行う。
・アンケート用紙の配付・回収は、教員が指名した学生2名が行う。学生指名後、教員は退室する。
・指名学生がアンケート用紙を配付。回答時間は、授業時間終了2分前までを目安とする。
・指名学生はアンケート用紙を回収後、回収用封筒に封入・封緘し、教務課に提出する。

5）調査期間

2019（H31）年1月7日（月）～2019（H31）年1月26日（土）（※原則、14週目に実施）

調査実施率と回収率

		対象科目数	実施科目数	調査実施率
配当所属	生活デザイン学科	30科目	29科目	96.7%
	調理・製菓学科 調理ｺｰｽ	37科目	34科目	91.9%
	調理・製菓学科 製菓ｺｰｽ	18科目	17科目	94.4%
	調理・製菓学科 FCｺｰｽ	19科目	19科目	100.0%
	栄養学科	57科目	56科目	98.2%
	幼児教育学科	301科目	292科目	97.0%
	観光学科	50科目	48科目	96.0%
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	26科目	24科目	92.3%
	経営会計学科	35科目	31科目	88.6%
	共通科目	59科目	57科目	96.6%
	教職科目	5科目	4科目	80.0%
	司書・司書教諭科目	11科目	11科目	100.0%
2018（H30）後期 計		648科目	622科目	96.0%

有効回答率　76．4％

6）調査結果の活用

アンケート結果はプロジェクトチームによって分析され、教学改革会議において報告された。また、授業ごとのアンケート結果は担当の教員に戻され、各教員はその結果を受けて授業改善計画書を作成し、次期授業の中で改善計画を実践していく。

本学では、教学改革会議のプロジェクトチームが中心となり、各学部・学科、FD委員会、教務係などと連携しながら、授業評価アンケートの結果を授業改善へとつなげていく。

授業評価アンケート結果

◆経年比較

	2018前期		2018後期	
Ⅰ授業への学生の取り組み	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1. この授業への出席状況	4.08	1.18	3.83	1.28
2. この授業では、話を熱心に聴き、積極的に取り組んだ。	3.98	1.09	3.95	1.08
3.「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均時間（授業時間を除く）	1.91	1.13	2.04	1.20
4.「全ての授業（この授業を含む）の予習・復習・課題+その他の自主的な学習」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（授業時間を除く）	1.64	0.99	1.75	1.11
5. この授業の難易度（自分にとって）	3.41	0.83	3.33	0.82
6. この授業ではシラバスを活用した。	2.20	1.24	2.28	1.28
Ⅱ授業内容と授業の進め方				
1. 説明は簡潔で分かりやすかった。	3.96	1.05	3.94	0.99
2. 学生の反応や理解に合わせて授業を進めてくれた。	3.99	1.03	3.97	0.98
3. 学生が関心を持てるように工夫して授業を進めてくれた。	3.98	1.04	3.97	0.98
4. 学びを深める方法（授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など）を教えてくれた。	3.96	0.98	3.97	0.94
5. 学生の授業参加（質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など）を促してくれた。	4.02	0.98	4.00	0.93
6. 学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバックをしてくれた。	3.97	0.98	3.97	0.94
7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.02	0.97	4.01	0.92
8. テキストや配布資料は適切で分かりやすかった。	3.97	1.00	3.97	0.95
9. 黒板やパワーポイントの文字は大きさが適切で見やすかった・教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。	3.98	1.01	3.96	0.95
10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.09	0.95	4.06	0.92
11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	4.13	0.93	4.09	0.90
12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	4.06	0.95	4.03	0.92
13. 教員の指導によってクラス全体が集中して学んでいた。	3.96	1.01	3.96	0.96
14. 教員は学生からの意見（日々の感想や学期途中の授業評価アンケートなど）をもとに授業方法や授業環境の改善に取り組んでいた。	3.98	0.99	3.98	0.94
Ⅲ授業を通じて得られたこと				
1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	4.01	0.95	4.02	0.90
2. 学習力や思考力が高まった。	3.96	0.96	3.97	0.91
3. 知的好奇心や探究心が高まった。	3.92	0.98	3.94	0.92
4. 考え方や社会的視野が広がった。	3.93	0.97	3.96	0.92
5. コミュニケーションする力（他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力）が高まった。	3.86	1.00	3.89	0.95
6. 本授業における到達目標（知識、技能、態度等）を達成できた。（※到達目標がわからない場合や覚えていない場合は①）	3.70	1.20	3.76	1.14
7. 今後の学校生活、社会生活、及び人生全般において役立つと思う。	4.07	0.95	4.05	0.91
8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.03	0.99	4.02	0.93

2018年度前期の値と比較して、各質問項目の平均値、標準偏差ともに大きな変化はなく、類似した傾向にあることがうかがえる。全体満足度は前期4.03、後期4.02で高い水準を維持している。

◆条件による「全体満足度」の違い

学科

所属学科	学年	平均値	度数	標準偏差
生活デザイン	1	3.93	454	0.92
	2	3.90	299	0.94
	合計	3.91	753	0.93
調理・製菓	1	4.11	1487	0.95
	2	4.46	532	0.75
	合計	4.20	2019	0.92
栄養	1	4.11	779	0.94
	2	3.99	1005	0.96
	合計	4.04	1784	0.95
幼児教育	1	3.92	4104	0.92
	2	4.12	1307	0.87
	合計	3.97	5411	0.91
観光	1	4.15	923	0.85
	2	4.18	234	0.92
	合計	4.16	1157	0.86
GC	1	4.13	346	0.95
	2	4.30	132	0.97
	合計	4.18	478	0.96
経営会計	1	3.63	547	1.05
	2	3.97	185	0.97
	合計	3.72	732	1.04
合計	1	3.98	8640	0.94
	2	4.12	3694	0.91
	合計	4.02	12334	0.93

※　3回生以上の学生および4大生は少数であったため分析から除外している。

授業形態

授業形態	平均値	度数	標準偏差
講義	3.94	6325	0.96
演習	4.05	4398	0.89
実験・実技	4.28	1611	0.88
合計	4.02	12334	0.93

授業規模

授業規模	平均値	度数	標準偏差
～19人	4.20	885	0.94
20～30人	4.05	9646	0.91
40～79人	3.75	1586	1.04
80人～	4.06	217	0.80
合計	4.02	12334	0.93

学年

学年	平均値	度数	標準偏差
1	3.98	8640	0.94
2	4.12	3694	0.91
合計	4.02	12334	0.93

性別

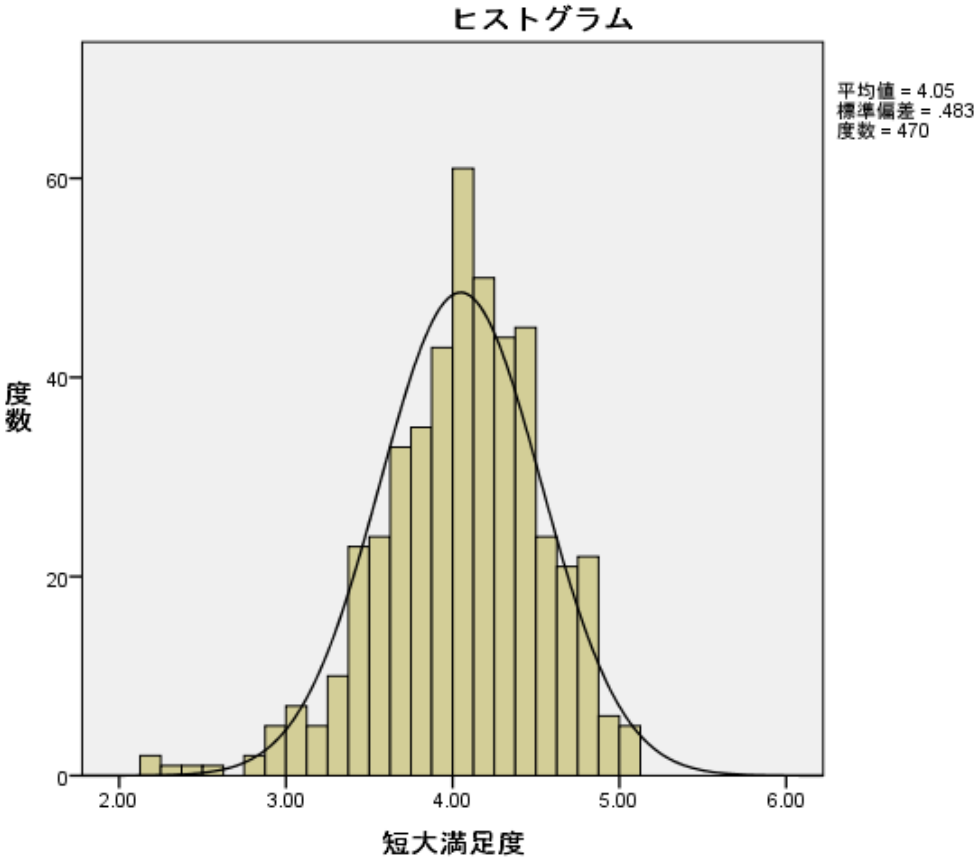
性別	平均値	度数	標準偏差
男性	4.15	364	0.97
女性	4.02	11690	0.93
その他	4.07	70	1.00
合計	4.02	12124	0.93

教員区分

教員区分	平均値	度数	標準偏差
専任	4.07	7101	0.89
非常勤	3.95	5233	0.98
合計	4.02	12334	0.93

全体的な満足度は、講義形式よりも演習や実験・実技といった学生の授業参加が求められる授業で高くなっている。また教員の目が届きやすい小規模授業においても満足度が高い事が示されている。より専門的な授業が多くなる2回生配当の授業で満足度が上昇すると推測され、専任教員の担当する授業の満足度が高いことがうかがえる。

◆全体満足度の分布(授業平均)



◆重回帰分析の結果
従属変数「全体として、この授業を受けて満足した」

	2018前期		2018後期				
Ⅰ授業への学生の取り組み	B		B	標準誤差	ベータ	有意確率	
1. この授業への出席状況	0.008	**	0.005	0.002	0.007	0.038	*
2. この授業では、話を熱心に聴き、積極的に取り組んだ。	0.015	**	0.009	0.003	0.010	0.009	**
3.「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均時間（授業時間を除く）	0.001		0.002	0.003	0.003	0.526	
4.「全ての授業（この授業を含む）の予習・復習・課題+その他の自主的な学習」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（授業時間を除く）	0.003		0.003	0.003	0.004	0.347	
5. この授業の難易度（自分にとって）	−0.016	**	−0.014	0.004	−0.012	0.000	**
6. この授業ではシラバスを活用した。	−0.001		−0.005	0.002	−0.007	0.032	*
Ⅱ授業内容と授業の進め方							
1. 説明は簡潔で分かりやすかった。	0.062	**	0.043	0.008	0.045	0.000	**
2. 学生の反応や理解に合わせて授業を進めてくれた。	0.012		0.008	0.009	0.008	0.393	
3. 学生が関心を持てるように工夫して授業を進めてくれた。	0.061	**	0.076	0.009	0.079	0.000	**
4. 学びを深める方法（授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など）を教えてくれた。	0.018	*	−0.016	0.009	−0.016	0.074	
5. 学生の授業参加（質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など）を促してくれた。	−0.030	**	−0.025	0.008	−0.025	0.002	**
6. 学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバックをしてくれた。	0.005		0.006	0.009	0.006	0.507	
7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	0.003		−0.018	0.009	−0.018	0.042	*
8. テキストや配布資料は適切で分かりやすかった。	0.032	**	0.066	0.008	0.067	0.000	**
9. 黒板やパワーポイントの文字は大きさが適切で見やすかった・教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。	0.038	**	0.048	0.009	0.049	0.000	**
10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	0.020	**	0.027	0.009	0.026	0.002	**
11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	0.065	**	0.015	0.009	0.014	0.100	
12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	−0.060	**	−0.022	0.009	−0.022	0.009	**
13. 教員の指導によってクラス全体が集中して学んでいた。	0.047	**	0.010	0.008	0.010	0.213	
14. 教員は学生からの意見（日々の感想や学期途中の授業評価アンケートなど）をもとに授業方法や授業環境の改善に取り組んでいた。	0.072	**	0.064	0.010	0.064	0.000	**
Ⅲ授業を通じて得られたこと							
1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	0.137	**	0.151	0.010	0.146	0.000	**
2. 学習力や思考力が高まった。	0.077	**	0.070	0.011	0.068	0.000	**
3. 知的好奇心や探究心が高まった。	0.101	**	0.085	0.010	0.084	0.000	**
4. 考え方や社会的視野が広がった。	0.028	**	0.019	0.010	0.018	0.056	
5. コミュニケーションする力（他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力）が高まった。	0.029	**	0.030	0.008	0.031	0.000	**
6. 本授業における到達目標（知識、技能、態度等）を達成できた。（※到達目標がわからない場合や覚えていない場合は①）	0.012	**	0.029	0.004	0.035	0.000	**
7. 今後の学校生活、社会生活、及び人生全般において役立つと思う。	0.294	**	0.351	0.008	0.340	0.000	**
調整済みR2 .874　　回帰のF検定 ***					**p<.01, *p<.05		

「全体満足度」を従属変数とし、各質問項目の回答を独立変数として、重回帰分析を行った。その結果、学生が関心を持てるような工夫をしている授業や、内容・資料・板書（実演）などが分かりやすい授業の満足度が高い事が示唆される。また専門性が高く、学習力や思考力、知的関心が高まる授業や、今後の人生に役立つ事が満足度にプラスの影響を与えていると推測される。学生の授業参加促進によるマイナスの影響は依然認められるものの、マナー指導の負の影響は若干低下している。

調査票